令和８年度　建設常任委員会　行政視察報告書

視　察　日　時	令和８年１０月１５日(木)　午後１時30分から午後３時00分		
視　察　先	香川県丸亀市	人口	107,011人（R8,4,1）
		面積	111,83㎢
担当職員等	都市計画課　副課長、担当長、担当職員		
視　察　内　容	コンパクトシティについて		
視　察　目　的	人口減少や少子高齢化が進行する中、持続可能な都市づくりを実現するためには、都市機能を適切に集約し、公共交通と連携させながら、誰もが暮らしやすいまちづくりを進めることが重要である。 本市においても、公共施設の老朽化や維持管理費の増大、中心市街地の活性化、公共交通の利便性向上などが課題となっている。 そこで、コンパクトシティの推進に取り組む丸亀市を視察し、丸亀城や市役所周辺の公共施設整備をはじめとする都市機能の集約、中心市街地の活性化、公共交通との連携について調査し、今後の橿原市における持続可能な都市づくりに活かすことを目的とする。		
調　査　概　要	丸亀市では、中心市街地における公共施設の再編・整備を進め、都市機能の集約とまちなかのにぎわい創出を図っている。 特に、市役所周辺では、市役所や市民交流活動センター「マルタス」などの公共施設を整備し、市民が集い、交流できる拠点づくりを進めてきた。また、第２期の都市再生整備計画では、市民会館や子育て関連施設の整備に加え、空き店舗等の活用やイベント、文化活動などを通じて、中心市街地のさらなる活性化を目指している。 こうした取り組みは、単に公共施設を集約するだけでなく、施設を核として人の流れを生み出し、周辺の商店街や地域経済への波及効果につなげようとするものである。 また、コンパクトシティの実現にあたっては、都市機能の集約とあわせて、住民が各施設や生活サービスへアクセスしやすい交通ネットワークの構築も重要となる。移動の利便性を高めるためには、理想とする交通体系を一度に実現するのではなく、地域の実情や需要を踏まえながら、段階的に利便性を向上させていく視点が必要であることを学んだ。		

令和８年度　建設常任委員会　行政視察報告書

所　　感	今回の視察では、丸亀城という歴史的資源を活かしながら、市役所周辺の公共施設整備と中心市街地の活性化を一体的に進めている点が、大変参考になった。 特に印象に残ったのは、コンパクトシティの実現に向けて、公共交通のネットワークは最終的にはドア・ツー・ドアで移動できる形が理想であるものの、それを一度に実現することは難しく、段階的に便利にしていくことが重要であるという考え方である。理想を掲げるだけでなく、実現可能な取り組みを積み重ねながら、市民の利便性を少しずつ高めていく姿勢は、本市においても大切にすべき視点であると感じた。 橿原市においても、公共施設の整備や都市機能の誘導を個別の事業として捉えるのではなく、公共交通、商業、歴史・文化資源、居住環境とのつながりを意識し、まち全体として効果が生まれるように進めていく必要がある。特に、歴史的資源や既存の市街地の強みを活かしながら、人が集まり、交流し、継続的ににぎわいが生まれる仕組みを構築することが重要である。 また、計画を策定すること自体を目的とするのではなく、整備した施設が実際に利用されているか、周辺地域に人の流れや経済的な効果が生まれているか、市民の暮らしやすさが向上しているかを継続的に検証する必要がある。 今回の視察で得られた知見を踏まえ、橿原市においても、人口減少や高齢化を見据えた都市機能の適切な配置と、公共交通の段階的な利便性向上を一体的に進めることで、将来にわたって持続可能で、市民にとって暮らしやすいまちづくりにつなげていきたい。